

野家「教養と就活の関係と無関係」講義内容に関する質問・コメント	
I. 教養とは何だろうか	
質問	教養＝哲学のように考えていたのですが、今日のお話を聞いてそうでもないのだと感じました。
回答	狭い意味での哲学は、教養のほんの一部にすぎません。少なくとも現代においては、科学知識のない人を教養人とは呼べないでしょう。私は、科学リテラシーと社会文化リテラシーをともに身に着けることが、現代人の教養だと考えています。
質問	教養について独自に定義していらっしゃる、とても感銘を受けましたが、そのような教養の状態に至るには、自分の判断等にかかわる知識が必要だと思います。そういった意味で古典的な教養の定義も否定できないと思いました。
回答	もちろんその通りです。文学や芸術を中心にした古典的な教養の定義は人間形成の上で無視できません。ただ、現代人の教養はもう少し広いパースペクティブから考えられるべきだ、というのが私の今日の話の趣旨でした。
質問	昔から教養について盛んに議論されていたのに、今日、改めて教養を考え直すという流れがあるのは不思議です。
回答	たしかに教養については古代の中国や西洋ではギリシア・ローマ時代から議論されてきました。ただ、現在の大学で「教養」を考え直す論議が盛んなことには理由があります。日本では1991年に大学設置基準の規制緩和がなされ、それに伴いほとんどの国立大で「教養部」が廃止されました。それによって、どのような形で教養教育を行うかは、各大学の方針に任されることになったのです。しかし、残念ながら理想形にはほど遠い状態で、いまだに議論は続いています。本学でも平成26年度から教養教育に関わる組織改革がなされますので、皆さんも関心をもって見守っていただくと同時に、大いに注文をつけていただきたいと思います。
質問	「歴史と社会の中で自分の現在位置を示す地図」とは具体的にはどのようなものになるのでしょうか。「歴史の中で自分の現在位置を示す地図」の場合は自分が生まれるまでや今に至るまでの歴史を知り、どのような歴史の流れの上に自分が存在しているのかを理解している、というようなことを指すのでしょうか。
回答	基本的にはそのように考えてよいと思います。とくに現代史とアジア地域との国際関係が自分の現在位置を知るためには重要です。それと新聞やテレビニュースで現代社会の中で何が問題になっているのかをチェックすることです。その上で、環境問題や生命倫理の問題など、「持続可能な社会」を実現するために自分に何ができるのかを考えてほしいと思います。
質問	教養というのは、百科事典に書いてあるようなことを暗記するということなのでしょうか？本来大学の役割とは高等教育以上の専門性の高い分野を学ぶ場であったはずですが、現在のテストなどの点数を指標にしたものでは、教養というのは育まれないと思います。作家のミヒャエル・エンデの言葉に「教養とは、質の繊細な分別能力である」というものがあるように、私はそれは座学で学ぶべきものではないと思います。
回答	もちろん百科事典を暗記しているからといって教養人とは呼べません。エンデの定義は、おそらくパスカルの「幾何学の精神」と「繊細の精神」の区別に由来するものと思われれます。つまり、繊細の精神とは微妙な差異を判別する判断力のことです。たしかにこれは「座学で学ぶべきものではない」かもしれませんが、座学で学べることを徹底的に学んだあとで初めて見えてくるものでもあります。(野家)
質問	教養というものは自分の為のものだと思いますが教養をもつ者は社会の為になるのでしょうか。社会の為になるから教養をもっているとと言えるのでしょうか。
回答	「自分の為」と「社会の為」は別に対立することではないと思います。私は、現代人の教養の二本の柱は、自分の考えを明確に表現できる<知力>と他人を理解し協力し合う<共感力>だと考えています。だとすれば、自分の為と社会の為は、表裏一体のものと言うべきでしょう。(野家)
II. 教養教育について	
質問	日本人は何か他人の目線（たとえば親や友人、教師など）ばかりを気にして、自分主体で自分のやりたいことに積極的にチャレンジする姿勢があまりないように思える。そしてそのことが就活ひいてはグローバル人材となる過程での足枷となっている気がする。これは日本の制度的、特に教育システム的な問題だろうか？それとも単なる日本人の性格だろうか？意見をお伝え下さい。
回答	「空気が読めない（KY）」という言葉が流行ったことがあります。日本人が空気を読み過ぎるのは、教育システムと日本人の性格の両方だろうと思います。特に義務教育の段階では、主体性やチャレンジ精神を培う機会が少ないのが大きな問題です。本学では「基礎ゼミ」のプレゼンテーションやディスカッションを通じてそうした能力を育成して行きたいと考えていますので、積極的に活用してほしいと思います。
質問	大学1、2年のうちは全学教育という一般教養科目を受けるとされるが、「その教育を受ける＝教養を身につける」ことにつながるのか疑問である。私は、教養を身につけることにはあらゆる要素を含むと考える。人とのコミュニケーションとか、専門以外の科目を学ぶこととかである。教養を身につけることとはどういうことか探りたい。
回答	おっしゃる通り、一般教養科目の単位を取れば教養が身につくわけではありません。一般教養科目は、あくまでも「教養」のカタログと考えてください。それによって触発された自分の興味や関心を主体的に拡大・深化させることによって、はじめて教養は身につきます。

質問	就活に必要な教養を養う手段として、特別な訓練は必要ないとあったが、小・中の義務教育において例えば自分の意見を発表したり、好奇心を養うための授業があっても良いと思う。もちろん普段の授業や生活でもこれらの力は身につくと思うが、義務教育の間に時間を取る必要があると思う。
回答	たしかに、義務教育の段階ではそのような「特別な訓練」が必要だと思います。「ゆとり教育」はそうした能力の育成を目指して始まったものですが、残念ながら腰砕けに終わってしまいました。本学の「基礎ゼミ」や「展開ゼミ」を通じて、ぜひそうした訓練を積み重ねてほしいと思います。
質問	パンキョーでヘーゲルの求める教養を獲得するのは難しいと思う。
回答	いかにもその通りですが、ヘーゲルが求めていたのは、当時の近代市民社会を生き抜くための市民の基本的技能でした。ですから、それをそのまま受け取るのではなく、現代に置き直して考える必要があります。私の考えでは、現代人の教養の二本の柱は、自分の考えを明確に表現できる<知力>と他人を理解し協力し合う<共感力>にはかなりません。これならば、パンキョーの授業でもそのきっかけをつかむことができるのではないのでしょうか。その手がかりをどのように拡大・深化させるかは、皆さんの努力次第です。
質問	講義のとおり人文知/科学知はもちろん必要だと思う。(スライド11)しかし、そのような学際的な機会を実際問題どう設けるのか。就職活動に煽られる中、自身の専門だけでなく他の専門を学ぶ余裕がどれだけ持てるか。
回答	たしかに私たちの頃に比べると、最近の学生は忙しくて余裕がありませんね。ただ、「学際的な機会」でしたら、本学では「サイエンス・カフェ」や「リベラルアーツ・サロン」、あるいは各学部が主催するシンポジウムや講演会など、さまざまな機会を設けて参加を呼びかけています。ぜひHPなどで探してみてください。また「他の専門を学ぶ余裕」については、次のようなJ.S.ミルの言葉をお伝えしておきましょう。「人文系の学者が自分たちの住む世界の自然法則や特性についてまったく無知になれるほど、また科学者が詩的情操と芸術的教養を欠いてしまうほど、われわれの精神はそんなに貧弱ではありません。」(J.S.ミル『大学教育について』岩波文庫、2011)
質問	教養教育のスタートは大学からで良いのか?大学入学時までに各自が教養を身につけ、大学ではたっぷりと専門教育に時間をかける、という方が大学にとってはむしろ効率が良いのではないか。
回答	教養教育と専門教育は別に対立するものではありません。私は一定の専門教育を受けた段階で必要になる教養というものもあると考えています。したがって、大学院のレベルで必要な教養教育というものもあるのです(実際、大阪大学の大学院では、そのような講義を設けています)。ですから、単なる効率の問題ではありません。(野家)
質問	教養科目を受けることは教養を身につけることに直結するのか?
回答	はっきりいえば「直結」はしません。ただ、大事な手がかりを与えてくれます。(野家)
質問	大学で学んだ教養知識とそれを活用する知識で社会に貢献するというが、大学生活で教養教育で得た知識を生かせるような場はあまりないのではないかと思います。実感が湧かなければ勉強のやる気もあまり起きない。
回答	「教養知識」という言葉はあまり耳にしませんが、教養は暗記科目のような「知識(knowledge)」ではありません。むしろ、「知恵(wisdom)」と呼ばれるべきものです。つまり、意図的に活用するものではなく、困難に陥ったとき、壁にぶつかったとき、トラブルに巻き込まれたとき、そんなときにおのずと働いて進むべきし方向を示唆してくれるのが教養です。ですから教養は「勉強のやる気」の問題というよりは、自分が何をを目指しているのかを見つめ直し、そのためになすべきことを考えることが出発点です。
Ⅲ. 教養と就活について	
質問	教養とは一般社会で様々な人々が身につけようとするからこそ成り立つと思った。だからこそ人間力の形成とは他人に認められるためにあるのだから就活に影響すると聞いていて思った。
回答	「他人に認められるため」というよりは、「他人と共に生きていくため」と言うべきでしょう。その意味で、教養の就活への影響は直接的ではなく、あくまでも間接的なものです。
質問	大学生活を送ってれば教養が身につくというが、教養が足りない人もいるだろうし、教養があっても就職できていない人もいるだろうと思う。つまりそれは、教養と就活は関係がないということなのか。あったとして、われわれは何をすべきなのか。王道はなくても、アドバイスのようなものが欲しい。
回答	教養は暗記科目ではありませんので、その点で教養は就活と直接的な関係はありません。ただ、教養=人間形成ですから、間接的な関係は大いにあります。まずは大学生活で全力で打ち込めるものを見出だし、それを間口として興味や関心を拡大・深化させていくこと、要は大学4年間を充実したものにし、漫然と過ごさないことです。
質問	大学で勉強をするよりもサークル活動やアルバイトで経験を積んだ人を求めている企業が多いように感じる。そういった社会の中における大学の立ち位置とはどうあるべきか?またそのような企業をどう思うか?
回答	大学の役割は先端的な学問研究と高度な専門教育を通じて社会に貢献することです。したがって、企業への人材派遣は大学の目的ではなく、あくまでも結果です。大学で培うべき教養は、自分の考えを明確に表現できる<知力>と他人を理解し協力し合う<共感力>という二本の柱から成り立っています。採用に当たってサークル活動やアルバイト経験を重視する企業は、後者の能力を優先して求めているのでしょう。企業はそれぞれの経営方針に基づいて採用を行っているわけですが、私としては知力と共感力のバランスがとれた人材を発掘してほしいと思っています。

質問	「就活に役立つ？」などというサブタイトルをつけている時点で下心しか見えてこない。教養というふわふわしたものを身につけようと思ってつくものではないし、数値的に評価できるものでもない。つまり、大学から始めても遅いのでは？それまでペーパーテストの成績しか求められてこなかったんだから。
回答	私たちの「下心」を見破ったのは、さすがです。しかし、「大学から始めても遅い」と諦めるのは早すぎます。数値的に評価できるものではないからこそ、市場から相対的に独立した大学という空間で学ぶ価値があるのです。今からでも決して遅くはありません。ご健闘を祈ります。(野家)
IV. 大学生生活について	
質問	教養を育むために充実した大学生生活を、ということでしたが、一般的に教養を育むと言われている読書についてはどうお考えですか。
回答	読書は教養の基盤です。読書を通じて私たちは他人の異質な考えに触れ、別の人生を追体験することができます。ゆっくりとさまざまなジャンルの読書に取り組める時間は、大学時代しかありません。私たちが作成した『読書の年輪』などを参考にしながら、ぜひ図書館を活用してください。
質問	教養を身に付けるにあたって、芸術鑑賞は必要ですか。もし必要ならば、どういったことをすれば良いのでしょうか。
回答	もちろん、美術や音楽などの芸術は人間文化の最高の精華ですから、読書と共に芸術鑑賞は教養を身に着ける不可欠の手段です。さいわい、川内地区は川内萩ホール、宮城県美術館、仙台市博物館などの施設が身近にある絶好の文化環境にあります。川内萩ホールでは多くのコンサートが年間を通じて開かれていますし(HPで検索できます)、宮城県美術館の企画展は学生証を提示すれば、半額で見ることができます。大いに楽しんでいただければと思います。
質問	教養を得るためには結局のところサークルとかバイトをしながら普通に大学生活をおくってればいいのかということなのかよくわからなかった。
回答	「普通に」というのが「漫然と」を意味するのなら、それは違います。サークルもバイトも勉学と並ぶ重要な大学生活の一環ですが、常に問題意識をもって興味や関心のアンテナを立てながら、何事にも真剣に全力で取り組むというのが、大学生としての「普通に」の意味ではないでしょうか。
質問	今の大学生生活を精一杯楽しもうと思ったのですが、これでうまくいくでしょうか？
回答	『論語』に「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」とありますから、楽しむことは大変重要です。ただし、何事でも浅薄な楽しみ方ではなく、真に楽しむことができるためには、それなりの研鑽と努力が必要です。「人間は努力する限り迷うものだ」(ゲーテ『ファウスト』)ということをおぼえたい上で、「精一杯楽しむ」のであれば、大いに結構なことだと思います。
質問	指摘された能力、求められる人物像などは自分たちもよく耳にし考えていることのように思います。自分の場合、問題なのはそこから考えたこと、解決策を実行に移す行動力がないことです。この消極性をどのように改善すればいいでしょうか。何かアドバイスを頂けますか？
回答	難しい質問ですね。あなた自身の問題ですので、適切なアドバイスはできかねます。ただ、一日に本を50頁読むとか、授業に出たら必ず一つは質問をすとか、簡単な義務を自分に課して、それを実行することから始めてみたらいかがでしょうか。(野家)
質問	教養を身につけたり、グローバル人材になるにあたって、読んでおいた方がいい本や、経験しておいた方がいいことを教えてください。
回答	「読んでおいた方がいい本」については、私たち教養教育院で作成した『読書の年輪』をぜひ参考にしてください。また、若いうちに「経験しておいた方がいいこと」は、留学や旅行などを通じた外国体験です。最近の学生は「内向き」で外に出たがらないと言われますが、外国に出て日本や日本人を外側から見ることをお勧めします。(野家)
IV. その他	
質問	高校でも、研究者と議論する機会が欲しいと思った。
回答	どこの大学でも現在は「出前授業」のような形で高大連携の試みが行われています。また、本学の「サイエンス・エンジェル」(理工系の女性大学院生のグループ)は、出身高校を訪問して研究の面白さや楽しさを高校生に伝えています。(野家)
特に回答を必要としないもの	
教養については色んな人が色んなことを言っていて、とどのつまりよく分からないと思っていました。しかし先生のお話は教養の定義がしっかりとしているだけでなく、教養を身につけることでどのように生きることができるかまで述べられていて、自分の一つの指標とできるように思えました。	

“教養の深い人間”は昔から（大昔から）理想とされてきたと思われませんが、それはつまり教養というものが人間としての総合力、人間力を表すものだからだと思います。結局、いつの時代でも求められるのは総合力のある人間、人間力のある人間なのでしょう。

教養が自己像を映し出す鏡だと考えた先人の主張は非常に興味深い。満足な教養教育を受けることで、社会が求める理想の人物へと成長することができるのだと考えられる。

就活に必要な教養なるものは、日々の暮らしで養われるというお話は、今までの自分の感性としては、奇妙なものですが、妙に納得できる内容で良かったです。

私はいままで教養という概念について掘り下げて考えたことがなかったが、この講義で教養の重要性を明確に認識することができた。

教養は知識ではなくて内面からにじみでるものだと思った。阿部謹也さんの、教養は社会の中での自己認識であるという意見に賛成である。自らのアイデンティティがない人はふわふわしていて、落ちついた感じがしないからである。

一口に「教養」と言っても、いろいろな人がいろいろな考えを持って定義してきたということが分かった。また、文系・理系問わず、人文的なこと、科学的なことを知っておくのは重要だと改めて実感できたので、これからも授業をしっかり受けようと思った。

就活にも教養にも「王道」はないというところで、本当にそのとおりだと思った。決まったパターンはないが、教育も何かプラスにはなっているのかもしれないと思った。

質疑応答で回答済み

採用活動の経験をお持ちとのことでしたが、面接等の場面でどのようなところから“型通りの応答”だと感じるのでしょうか。

自分に教養が身に付いたと実感できる日はくるのでしょうか。教養に特別な訓練が必要ないならば、もしかしたら知らずのうちに教養を身に付けることなく学生生活を終えてしまうかもしれません。

自己認識ができ、他者の眼差しを正確に知りえるために効果的な努力とは何をいうのでしょうか。よろしくお願いします。

就活、採活に必要なのは単に学力だけではなく、日々の生活で培われる人間力・自己認識であり、勉学に励みながら充実した日々を送りたいと思った。

採用活動時には、個人的にどのような人を採用したいと思うのか？「ドッシリとした立ち居振る無い」とおっしゃっていたが、教養がどのようにそれに関わっていくのか詳しく聞きたい。

採用する立場から見ると、具体的にどんな人物（どんな能力を持っている）を採用したいと思ったか。

今回の合同講義のタイトルに“就活”を入れたのはなぜか。たんに「教養はなぜ必要か」でも良かったし、就活の代わりに“人生”や“恋愛”でも良かったと思う。ただただ、学生の興味を引きそうだったから、では悲しいです。

他者の眼で自分を認識できるようになるのは非常に難しいと思う。